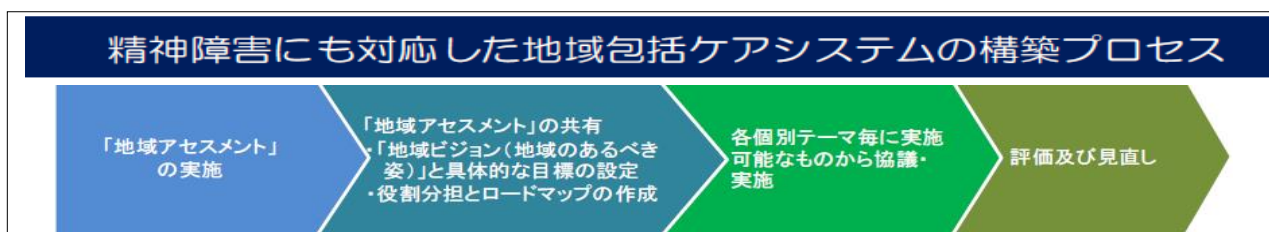


「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（「にも包括」）の構築にかかるワーキンググループの経緯について

令和 3 年度より、厚生労働省が示す「にも包括」の構築プロセスに基づき、以下のとおり検討を進めていくこととした。



（厚生労働省「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き」より）

まずは「地域アセスメント」を行うにあたり、具体的に区の現状の把握および取り組むべき課題の抽出を行うため、区内地域移行支援事業所を中心としたメンバーで構成するワーキンググループを立ち上げた。

なお、ワーキンググループは「にも包括」にかかる意見交換・検討等の場であり、精神医療部会は検討内容を協議する場とし、2つは連動していくこととした（図 1）。

令和 3 年度は、WG を 2 回開催し、構成要素*ごとに足立区の地域アセスメント（現状の把握と課題の抽出）を行い、共通課題を整理した（図 2）。

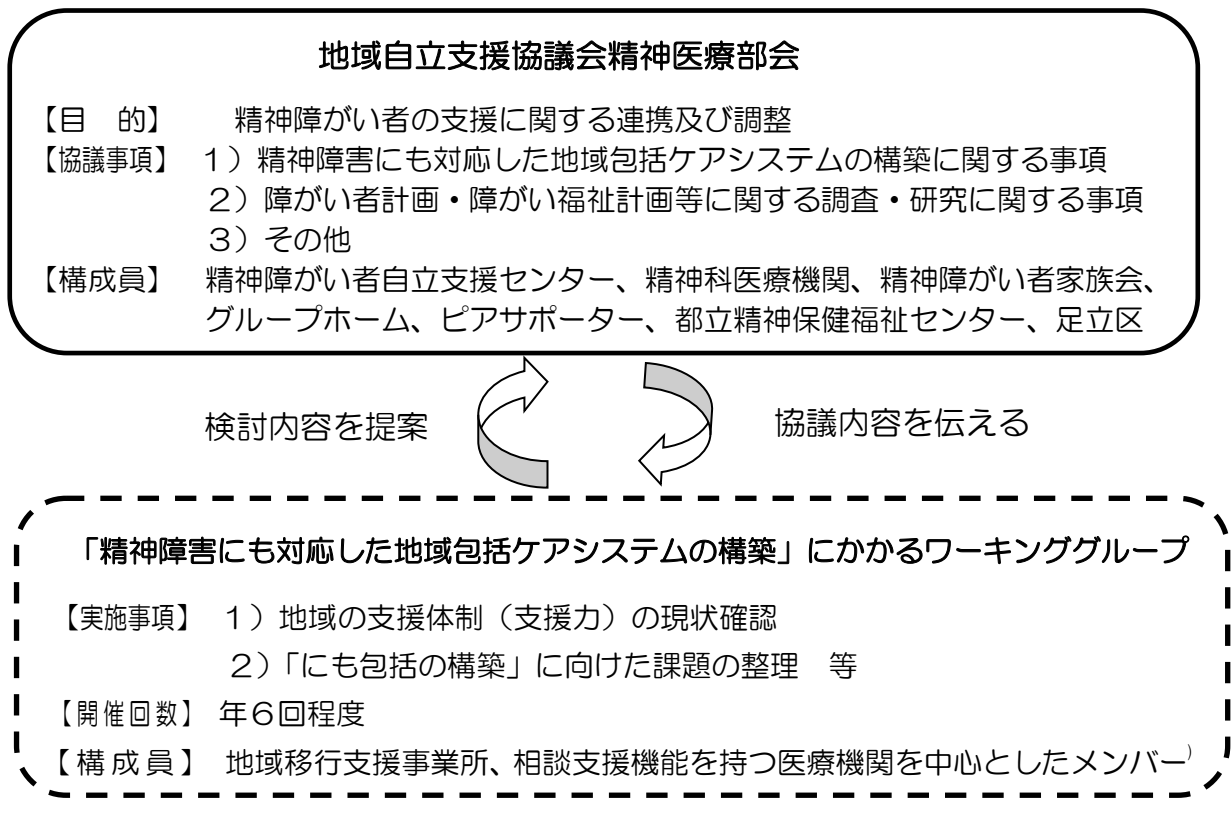
*構成要素：「にも包括の構築に係る検討会」最終報告に示された「にも包括を構成する 7 つの要素

共通課題は「相互理解」「人材育成」であり、今後は事例検討（研修）を積み重ねていくこととなった。

令和 4 年度は、「にも包括」構築のため、地域課題を確認しながら、3 回の事例検討を行なった。

日時	内容
R3. 9. 10	精神医療部会にて立ち上げの承認
R3. 10 月	関係者での打合せ
R3. 11. 8	第 1 回WG 地域アセスメントの方法について検討
(宿題)	構成要素ごとに地域アセスメント表の書き込み
R3. 12. 1	第 2 回WG 構成要素ごとに現状・課題を検討、共通課題を整理。
R4. 5. 25	第 1 回WG 野中式事例検討①
R4. 6. 10	第 2 回WG 野中式事例検討②
R4. 6. 20	第 3 回WG 野中式事例検討③ 3 回の事例検討から地域の課題を検討

【図1 部会とワーキンググループの関係】



【図2 R3年度ワーキンググループでの検討結果まとめ】

【構成要素】	課題	課題の まとめ	今後WGでやる べきこと
地域精神保健及び 障害福祉	・ タイムリーな支援システム ・ 多数ある支援を使いこなすマネジメント力 ・ 計画相談事業所の数 ・ 長期入院者のいる病院への働きかけ	相互理解 人材育成	事例検討 研修 目標設定 (できれば数値 設定)
精神医療の 提供体制	・ 医療・福祉の相互の理解はどうか ・ 病院の地域移行事業所受入れ体制		
住まいの確保と 居住支援	・ 不動産屋や新規グループホーム等の障がい への理解 ・ 居住支援法人との連携		
社会参加	・ 就労以外での社会参加（居場所づくり）		
当事者・ ピアサポーター	・ ピアサポーターの養成と研修 ・ 活躍の場		
精神障害を有する 方等の家族	・ 家族への支援体制（高齢化）		
人材育成	・ 多数ある連絡会等のつながり ・ 事例検討での研修の場 ・ 普及啓発		